



滋賀県草津市立老上小学校 学校だより

＜学校教育目標＞

「よりよい生き方を求めて

ふるさとを愛し

未来にはばたく老上っ子」

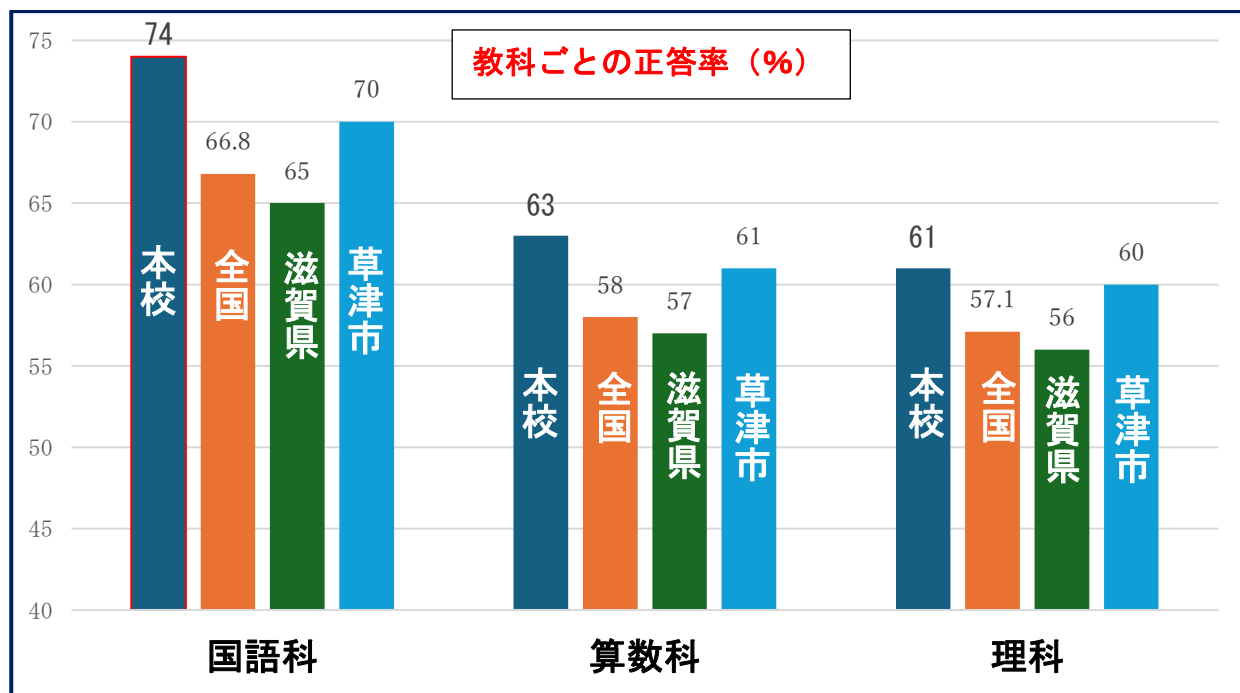
おいかみっ子

令和7年(2025年)8月26日 No.10

「学びに向かう力」の向上をめざして取り組みます ～全国学力・学習状況調査結果より～

4月17日に実施しました「全国学力・学習状況調査」の結果をもとに、今後、本校として大切にする実践や取組について考察した内容をご報告します。本調査は、学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的としています。

教科に関する調査では、国語科、算数科、理科ともに全国平均、滋賀県・草津市平均を上回る結果となりました。特に国語科では、全国平均より7.2ポイント高い結果でした。



＜国語科＞

□顕著な課題

・目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけること

➡○国語科を要として、各教科等の特質に応じて言語活動の充実を図ります。

・必要な情報は読む目的に応じて変わるため読む目的を明確にしたうえで、必要な情報を見つけ活用する言語活動を取り入れる。

・国語科だけでなくすべての教科・領域において対話(話し合い・交流)の場をもつようにする。

○子どもたちが課題の解決に向けて、互いの考えを共有したり、まとめたり、表現したりするなどの学習活動において、効果的な場面でICTを活用します。

・情報や考えを比較、分類、関連、分析、構造化するために思考ツールを活用した授業づくりに取り組む。

<算数科>

□顕著な課題

- ・問われていることを示すグラフを選択し、その理由を言葉や数を用いて記述すること
- ・分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述すること
- ➡○「目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、問題を解決する」学習活動を充実します。
- ・身のまわりの事象について、興味・関心や問題意識に基づき、統計的に解決可能な問題を設定する。

児童生徒質問紙調査

◆本校の強み

□生活習慣

<肯定的な回答(%)>

質問項目	本校	全国	全国との差
朝食を毎日食べている	96. 8	93.7	3.1



□自分のこと

質問項目	本校	全国	全国との差
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる	80. 0	70.6	9.4
人の役に立つ人間になりたいと思う	99. 2	96.4	2.8



□学習活動

質問項目	本校	全国	全国との差
あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器で文章を作成する(文字、コメントを書くなど)ことができると思う	96. 0	81.8	14.2
あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができると思う	82. 4	69.3	13.1
分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできる	92. 8	81.7	11.1
5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	91. 2	80.3	10.9
5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた	87. 2	77.8	9.4
5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた	90. 4	83.4	7.0
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる	92. 8	82.3	10.5
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	87. 2	81.3	5.9



◆今後の課題

質問項目	本校	全国	全国との差
読書は好き	67. 2	69.7	-2.5
先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う	85. 6	87.4	-1.8
国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれる	74. 4	78.1	-3.7



○「読書活動」の推進

- ・スマートフォンやゲームなどのデジタル機器の普及により読書に向かう時間や興味が減少している傾向があります。子どもたちが読書に親しむことができるように朝の読書タイムや読み聞かせ、ブックトークなどの取組を引き続き進めていきます。また、図書館の環境づくりに努めていきます。

○「個に応じた指導」の充実

- ・子ども一人ひとりの良いところやうまくできていないところ、前よりもできるようになったところやどうしたらうまくできるようになるかをしっかり伝えるようにします。また、すべての子どもたちが学びを実感できるように、子どものノートや発言、表情などに目を向け座席表などを活用して子ども一人ひとりを見て指導していきます。あわせて、ICTを活用して学習の足跡を記録するように努めます。

○「スクールESDおいかみ」実践の充実

- ・生活科、総合的な学習の時間において、地域の課題解決に子どもたちが主体的にかかわり、地域社会の一員としての意識と行動力を身に付けることをめざした学習活動を展開していきます。
- ・道徳や学級活動での議論や話し合い活動を推進し、子どもたちが主体的に意見交換や問題解決を行う機会を増やします。